国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

・昨年度の分析の結果は、国語科全体の達成率は3学年とも、目標値を上回った。
・同一学年の経年変化を見ると、目標値を上回った状態で、ほぼ横ばいの数値であった。
・一昨年度の課題となっていた「指定された文字数や段落構成を考えて作文を書くこと・自分の意見とその理由を区別して書くこと」の数値が上がった。「作文学習の際に、意図的に字数や段落を限定して作文を書かせる機会を作る。さらに、読解の学習等でも字数や段落を限定して、読んで分かったことや場面ごとの感想等を書かせる機会を作る。理科や算数等の他の教科とも連携しながら、意見を書いた後、段落を分けてその理由を書く学習を意図的に行う。」といった取り組みの成果が表れたと考えられる。

国語科における調査結果の分析

内容別結果の分析	○昨年度の分析の結果は、国語科の平均正答率は、目標値を上回った。前年度までの学習の実現状況については、おおむね良好といえる。特に、文学的文章の内容の読み取りの正答率は、目標値を大きく上回った。説明的文章の内容の読み取りの正答率は物語文には及ばない。保護者による読み聞かせ活動や、読書学習司書、図書館ボランティアによる環境整備、図書委員会による読書を推進させる活動、朝読書の成果と考えられる。 ○言葉の学習の中の漢字の読みの正答率は目標値を大きく上回った。 ○ローマ字の正答率は、継続して練習に取り組み目標値を大きく上回った一昨年度に対し、昨年度は下がった。
観点別結果の分析	○「知識及び技能」では、漢字の読みの力が安定している。ローマ字の読み書きの力は、継続的な取り組みが必要と思われる。 ○「思考力,判断力,表現力等」の話す・聞くことについては、内容を聞き取ることはおおむねできた。しかし、話の意図を考えながら、話の内容を聞き、メモを取ることには、少し課題がある。 ○書くことについては、目標値を大きく上回り、おおむね身に付けることができたと言える。 ○読むことについては、「文学的文章の登場人物の様子や気持ちを読み取ること」において、目標値を大きく上回った。今までの取り組みの成果と考えられる。しかし、説明的文章の「段落のまとまりを考えながら、読み取ること」は、より一層の定着を図る必要がある。 ○「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、日常の授業の様子や課題に取り組む姿から、おおむねできていると考えられる。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1話の意図を考えながら、話の内容を聞き、メモを取る力を育てる。
2段落のまとまりを考えながら、読み取る力を育てる。（説明的文章）
3言葉の特徴や使い方に関する事項を身に付けることができるようにする。

国語科の授業改善策

○話の意図を考えながら、話の内容を聞き、メモを取る力を育てる。
　低学年では、読み聞かせの後などに内容を振り返る機会を意図的に設ける。中・高学年では大事なことを選び取ってメモをする経験を久原フェスタでの発表や社会科見学等で計画的に行う。
○段落のまとまりを考えながら、読み取る力を育てる。（説明的文章）
　読書を好む児童が多いが、読書の傾向が物語に偏りがちである。説明的文章を読み取る力を高めるために、低学年では生活科の学習に関連させて、中・高学年では理科や社会科の学習に関連させて教師が科学読み物を紹介する。各学年のフロアーに置く図書のテーマに科学読み物を選び、児童が科学読み物（説明的文章）に触れる機会を増やす。高学年では、新聞の活用も促す。
○言葉の特徴や使い方に関する事項を身に付けることができるようにする。
　全学年において「書くって楽しいね」を有効に活用し、学年に応じた内容を計画的に指導する。例文に多く触れさせて、理解を深める。
　ローマ字については、3年生で年間を通して、計画的に学習を行う。上学年においても、タイピング練習などを行うことで、継続的にローマ字の学習に取り組めるようにする。

算数科における昨年度の授業改善推進プランの検証

・習熟度別学習をすることで、個に応じた授業を展開することができ、学習内容の理解が増すとともに、学習意欲も向上した。
・新しい課題の解決に向け、既習事項を用いて、自分の考えを図や表、式の変形、文章などで説明する時間を単元の導入時などを中心に設けることによって、児童の考えを深めることができた。
・自分の考えを立式したり、図で説明したりする学習を取り入れることによって、個人差はあるが筋道を立てて考える力が少しずつ身についてきている。

算数科における調査結果の分析

内容別結果の分析	○昨年度の分析の結果では、算数科全体の正答率は75%を超えており、目標値より10%以上高い結果となっている。学習の現状況については、良好といえる。 ○問題の内容別正答率も、全ての項目で目標値を上回っている。
観点別結果の分析	○「数量や図形についての知識・技能」は、平均正答率が7～8割以上で、目標値を10%以上上回っている。学習した内容が理解され、基本的な計算や処理をする能力は身についていると考える。 ○「数学的な思考・判断・処理」は、平均正答率が6～7割であり、目標値を15%程度上回っている。考える力を伸ばす指導を取り入れた成果といえる。 ○「主体的に学習に取り組む態度」は、平均正答率が6～7割程度で、目標値を10%以上上回っている。よりよく解決しようとしたり、算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度が見受けられる。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1　学習内容により、児童の実態に適した少人数指導の方法を工夫する。導入を工夫したり、生活に密着した具体物を提示したりすることによって、興味、関心を高めていく。
2　自分の考えを立式したり図で説明したりする場面を意図的に設定し、算数的活動を積極的に取り入れる。
3　数学的な考え方を育てるために、発問の仕方を工夫し、明確な根拠を理由として説明したり記述したりできるようにする。
4　区のステップ学習プリントを活用し、児童の習熟度に応じた学習を進めることにより、すべての児童に基礎基本を身に付けさせるとともに、達成感をもたせる。
5　既習事項の確認や復習を確実に行い、知識・理解のより一層の定着を図る。

算数科の授業改善策

○興味、関心をもって取り組めるよう、低学年では、身近にある具体物を多く用いるなど、工夫する。中学年では、量感を育てるために、具体物を使った体験学習を取り入れる。高学年では、既習事項を生かせる教材を工夫する。
○自分の考えを相手に分かりやすく伝えられるように、どう表現すれば良いのかを考えさせる。低・中学年では、具体物操作、絵、図、式、言葉、テープ図、表などを活用できるよう指導する。中・高学年では、図、式、言葉、数直線、表などを活用できるように指導する。
○上記に示したような方法で表現した自分の考えを相手に伝える場を授業内で設定する。低学年ではペアでの対話、中・高学年では少人数グループで意見交流した後に、全体で検討するようにする。なるべく多くの児童の発言機会を確保することで、自分の考えを筋道立てて説明する力を高める。また、集団検討の場面では、図、式、言葉などを関連付けて捉えられるようにしたり、より効率的な解決の方法を話し合い、児童が互いに高め合えるようにする。
○課題把握、見通し、自力解決、集団検討、まとめ、振り返りといった問題解決の流れを基本として授業を行うことで、今後もより一層算数の力を高めていけるようにする。

理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考表現」「観察実験の技能」「自然事象の知識理解」どの学年も区の平均値を上回っている。この成果は事象との出会いの中で意欲的に問題を発見し、問題解決に取り組んだことで実感の伴った知識を身に着けることができたと考えられる。また、自ら学習を進めるにあたっては、ノート指導を徹底し、考察の書き方を（予想との比較・今後取り組んでみたいこと）2つに分けて記述させる工夫が生かされてきたのだと考えられる。ここ数年の課題である知識の活用については、校内で研修会を開いたり、理科主任の授業を公開するなどして活用の授業の充実に努めている。今後は対話を多く取り入れ、より客観的な見方・考え方を育てることで、科学的な思考力を更に高めていきたいと考える。

理科における調査結果の分析

内容別結果の分析	○理科全体の達成率は目標値に対して、全体を通して見ると、4年生は4．2ポイント、6年生は4．2ポイント上回っている。5年生は2．3ポイント下回る結果であった。 ○目標値と比較すると、4年生の「植物（ホウセンカ）の育ち方」で31．4ポイント、5年生の「1年間の動物（カマキリ）の様子」で34．2ポイント、6年生の「（台風が来たときの）天気の変化」で20ポイントと、特に低かった内容が生物・地球単元であることが分かる。実験ではなく観察や資料の読み取りが中心になるため、理解の定着が低かったのではないかと考えられる。 ○昨年度の分析の結果から、6年「流れる水のはたらき」に関する問題は、ここ数年を通して目標値を下回っている。川原の石の写真から、観察された川原の場所を推測できる力が特に低い。多摩川の上流と下流の石の実物を用意することができたため、実際に手に取って観察する活動を今後も続けていけるようにする。
観点別結果の分析	○「主体的に学習に取り組む態度」の設問では、どの学年も区平均を上回る数値を示している。自ら問題を発見し問題解決してきた成果が出たと考えられる。 ○「科学的な思考・表現」の設問は、4年生が6．9ポイント。6年生が4．3ポイント目標値を上回り、5年生は0．8ポイント下回った。観察、実験から考察までを3年生から一貫した指導をしてきたことで、科学的な思考力が定着してきていると考えられる。 ○「知識・技能」の設問では、特に6年生が9.6ポイントと、目標値を大きく上回る結果が得られており、特に実験に力を入れて指導してきた成果が表れていることが分かる。 ○「思考・判断・表現力」の設問は、4年生と6年生は2ポイント以上上回っており、5年生は3.3ポイント目標値を下回っている。実験の結果から自分の言葉で考察させることで確かな知識となるように、引き続き指導に力を入れていく必要がある。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1　主体的に問題解決をしていく力
○自然事象との出会いを効果的に行うことで、自ら問題を発見し意欲的に問題解決に取り組むことができるようにする。
2　問題解決型の学習の仕方を定着させることで科学的な見方・考え方ができる力
○生活体験や既習の学習をもとに、根拠をもって予想を立てることができるようにする。
○予想や実験結果を活用しながら考察し、個人⇒グループ⇒クラス全体で話し合い、自然事象への理解を深めることができるようにする。また、対話をしたあとに再考察することで、見方・考え方を広げ、深い知識につなげる。
3　日常生活の自然事象に適用する力
○一人一人が実験道具を扱い技能を習得するとともに、実験を通して得られた知識を日常生活の自然事象に適用したり、ものづくりに生かしたりすることができるようにする。

理科の授業改善策

<u>○自然事象や科学的な事象に対して興味・関心をもち、主体的に観察や実験に取り組む力の育成</u>
中学年…児童がもつ自然事象へのイメージに働きかけ、児童が調べる意欲をもてるよう導入の教材の工夫に取り組む。また、児童の言葉で学習問題を作れるよう、学習計画の工夫に取り組む。導入時に児童の興味・関心が高まるような模擬実験を行う。
高学年…児童が主体となって、既習の知識をもとに推論し、児童の考えを生かした学習計画となるよう、単元計画の工夫に取り組む。導入時に児童の興味・関心が高まるような模擬実験を行う。
<u>○生活体験や既習の学習をもとに、根拠をもって予想を立てる力の育成</u>
中学年…生活体験や既習の学習を想起させ、根拠が明確になるよう指導・助言の工夫をする。（この時、図を効果的に活用できるように留意する。）
高学年…課題を明確にし、条件を制御した実験・観察の方法を一人一人に考えさせ、妥当性を話し合わせる活動を問題解決型の学習に位置付ける取り組みを行う。
<u>○予想や実験結果を活用しながら考察し、自然事象への理解を深めるために</u>
中学年…予想や実験結果を比較しながら、根拠を明確にして言語化し（絵・言語・表・グラフ・モデル図・発表など）、児童自ら結論を導きだせるように話し合う活動（個人ーグループー全体）を問題解決型の学習に位置付ける取り組みを行う。単元のまとめを行い知識を定着を図る。
高学年…考察を言語化（言葉・表・グラフ・モデル図・発表など）し表現する中で、予想や仮説と関係付けながら表現できるよう指導・助言の工夫をする。考察の実証性・再現性・客観性を検討する話し合い活動（個人ーグループー全体）を問題解決型の学習に位置付ける取り組みを行う。単元で学んだ知識を活用して新たな事象を解明していく活用の授業を豊富に行い知識の定着を図る。
<u>○一人一人が実験道具を扱い技能を習得するとともに、実験を通して得られた知識を日常生活の自然事象に適用したり、ものづくりに生かしたりすることができるようにするために</u>
中学年…実験道具を充実させ、体験を通して確実な技能の習得を図る。学んだ知識をもとに日常生活の中から暮らしの中で自然事象を見つける活動を取り入れる。ものづくりの活動を通して、知識を生かした体験的な学習の場を設定する。
高学年…児童自ら実験方法を考え、問題を解決する活動を取り入れる。日常生活や、災害、仕事などに関係している自然事象を調べる活動を取り入れる。

社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

・社会的事象についての関心・意欲・態度はどの学年も目標値を上回った。社会科見学など各学年の実態に応じて取り組んだ成果が表れたと考えられる。
・4、5年生の社会的事象についての知識・理解は高いが、社会的な思考・判断・表現する力は十分であるとは言えない。6年生は社会的な思考・判断・表現する力は十分であるが、知識・理解の定着は低い。

社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	○社会科全体の達成率はどの学年も目標値に対して約10ポイントを上回っており、前学年までの学習の状況についてはおおむね良好といえる。 ○全学年とも目標値は上回ることができているが、4年生は「安全なくらしー交通事故や事件ー」、5年生は「安全なくらしー火事ー」、6年生は「自動車をつくる工業」の定着に課題が見られる。
観点別結果の分析	○昨年度の分析結果として、「知識・技能」の項目は目標値に対してすべての学年で目標値よりも5ポイント以上高い数値を示している。 ○昨年度の分析結果として、「思考・判断・表現」の項目は目標値に対して、4年生は約9ポイント、5、6年生は約10ポイント高い数値を示している。 ○昨年度の分析結果として、「主体的に学習に取り組む態度」の項目は、どの学年も目標値を上回った。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1　地図上の事柄について説明する力
○どの学年でも地図を活用し、方位や地図記号、標高や位置など地理的な感覚を高める。
2　資料を読み取る力
○グラフや図、絵など様々な資料から情報を読み取る活動を重視する。
○複数の資料から相違点、共通点を読み取る活動を重視する。
3　自分の考えを表現する力
○発言や文章、絵や図、ポスターなど様々な表現活動を行う。
○資料をもとに理由を述べたり、推論したりすることができるようにする。

社会科の授業改善策

・どの学年でも地図を活用し、方位や地図記号、標高や位置など地理的な感覚を高める。
中学年・・・教室内に地図資料を掲示するとともに、一人一枚地図（区内地図）を常に所持させる。学習の中で扱う地名や方位、高低差の読み方、地図記号などは、その都度地図を活用して確認させる。
高学年・・・歴史的事象や地名などが出てくるたびに、地図帳を用いて調べる活動を取り入れる。

・グラフや図、絵など様々な資料から情報を読み取る活動を重視する。
中学年・・・資料を読み取る時間を十分に確保する。また資料から分かったことを共有し、情報を読み取る力を高める（この場合の資料は、写真・表・絵・文章・グラフ・実物・見学を含む）。また、複数の資料から共通点を見出す活動を多く取り入れる。
高学年・・・資料を様々な角度から読み取り、その中から必要な情報を取捨選択する力を高める。

・発言や文章、絵や図、ポスターなど様々な表現活動を行う。
中学年・・・様々な表現（新聞、グラフ、表、絵など）の方法を指導する。
高学年・・・学習場面に応じて、どの表現方法が適切か判断させ、表現活動を行わせる。また、その際には根拠とした資料（教科書や資料集など）をはっきりさせるよう指導をする。

音楽科における昨年度の授業改善推進プランの検証

音楽に対する関心が高く、意欲的に取り組んでいる児童が多い。歌を歌うことが好き・どちらかというと好きという児童は多かった。 器楽表現では、合奏することが好きな児童はほとんどであるが、技能の差・読譜力の差が大きかった。 音楽づくりでは、取り組みを増やしたのでおもしろさを感じる児童が増え、音楽の要素、仕組みを生かして、工夫して作ることができる児童が増えている。 曲を聴いて、音楽の特徴を理解し、曲想との関連に気付いて、想像豊かに鑑賞できる児童が増えてきている。 楽器の技能がやや不得意であっても音楽は楽しかったと感じる児童はほとんどであった。

音楽科における調査結果の分析

内容別結果の分析	○歌唱・・・昨年度は、歌の中に好きな部分を見出し、楽しみながら歌う児童が多い。 ○器楽・・・昨年度は、楽器演奏に対する関心・意欲の高い児童は多く、進んで楽器を選択し演奏しようとするが、旋律楽器及び打楽器などによる基本的な技能の個人差が大きい。 ○音楽づくり・・・昨年度は、リズム遊び、リズムリレーなどを積み重ね、音楽の要素、仕組みをいかして言葉のアンサンブル、リズムアンサンブルを作ることができるよう、取り組んでいる。要素や仕組みをいかした音楽づくりが自分の表したい音楽をイメージして作れている児童もいるが、努力を要する児童もいる。 ○鑑賞・・・・昨年度は、曲想の変化を感じ、想像豊かに鑑賞できる児童が多い。楽曲のよさや音色、楽器の特徴など知覚し、曲想と関連付けられるよう取り組んでいる。
観点別結果の分析	○知識・技能 歌唱…昨年度は、曲に合った発声で歌うことができている児童が多かった。対話的な活動により、より高めあっていた。 器楽…昨年度は、基本的な奏法の定着はおおむねできているものの、努力を要する児童も一部いる。 音楽づくり…仕組みを理解して、音楽を作ることはおおむねできた。 鑑賞…音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組みを聴き取り、その良さを感じることは多くの児童ができている。 ○思考・判断・表現力 歌唱…昨年度は、歌詞の意味を考えながら思いが伝わるように歌おうとしたり、曲に思いをのせて歌えたいた。 器楽、音楽づくり…楽器の特性や曲のよさを生かした演奏法やリズムを考え、表現できた。 鑑賞…多くの児童が、曲の良さを味わい、想像豊かに味わって聴くことができている。 ○主体的に取り組む態度 関心・意欲・態度 音楽に対する関心が高く、合奏、音楽づくりの表現活動においては意欲的に取り組んでいる。 昨年度は、合唱でもペア活動を取り入れ、楽しく歌うことができた。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1基礎的技能の定着
〇曲想にふさわしい演奏の仕方やはスモールステップで技能の定着と向上を図る。
2音楽づくりの充実
〇様々な発想をもって即興的に表現したり、音楽の要素をや仕組みを生かしながら、思いや意図をもち、音楽をつくる。
3鑑賞の能力の向上
〇音楽の諸要素や仕組みを知覚して、演奏のよさやおもしろさや曲想を感じ取り、深く味わいながら鑑賞できるようにする。

音楽科の授業改善策

〇器楽演奏の基礎の徹底と技能の向上のために
低学年・・聴き合うことを意識させる。器楽は個別指導を充実させていく。
中学年・・他のパートを聴き合うようにさせる。ペア等学習形態の工夫をし、対話的活動を取り入れる。
高学年・・ハーモニーの響きを感じられるよう重点的に指導し、具体的な目標をもって取り組めるようにする。楽器の運指は短いフレーズを反復練習して定着できるように楽譜の提示方法を工夫する。
〇思いや意図をもって音楽づくりをするために
低学年・・児童が見つけた様々な音で短いリズムをつくり、様々な発想をいかして反復したりつなげたりして音楽にする。
中学年・・いろいろな音の響きや組わせを楽しみ、こんな音楽にしようと意図をもち、試行錯誤しながら創意工夫させる。
高学年・・音楽を形づくっている要素を取り入れながら全体の構成を考えたリズムアンサンブル、旋律づくりができるよう、提示を工夫する。
〇味わって鑑賞するために
低学年・・楽曲の気分を感じ取らせ、旋律を口ずさんだり、リズム打ちや身体表現などして楽しく聴く活動を工夫をする。
中学年・・曲想とその変化を感じ取らせ、身体表現やワークシートや意見交流など学習活動の工夫をする。
高学年・・聴く視点を明確にし、くりかえし聴くことで曲の特徴と曲想の変化に気付き、楽曲全体のおもしろさ、美しくしさなど深く味わえるようにしていく。

図工科における昨年度の授業改善推進プランの検証

〇各学級の大半の児童が、自分の表現に前向きに取り組んでいる。
〇指導計画に、系統的な技能習得の時間を設定したことで、用具の正しい使い方、協力して安全に活動する意識をもつことができた。
〇造形遊びや、手や体全体を使った題材を増やすことにより、発想のつまずきが減り、とりかかりがスムーズになった。
〇児童相互の鑑賞の機会は増えたが、言語活動の充実や外部機関との連携など、内容の充実が必要。

図工科における調査結果の分析

内容別結果の分析	〈アンケート調査、授業での児童の見取りから得た結果〉 **〇材料、用具・・・**個人用、共同で使うもの、選んで使うものなど、表現したいことに合わせて各自が選べるように幅を持たせて準備をしているが、個別に支援が必要な場合もある。 **〇イメージをもつ・・・**自分の中にある思いや、題材から発想したことを素直に表現している。イメージを広げたり深めたりすることについては、個人差が大きい。 **〇つくる・・・**活発に手や体を動かして、取り組んでいる。発想したことと技能面が結びついていない場合もあるが、解決にむけて考える姿も見られる。 **〇伝える・・・**友達のよさを認めたり、自分の作品を紹介することが苦手な児童もいる。よさや美しさ、工夫を伝える言葉が不足している児童もいる。
観点別結果の分析	**〇知識・技能** 既習事項を生かした学習ができるように指導計画をたて、系統的に繰り返し経験することで技能を段階的に身に付けている。低学年は、はさみ、のり、カッターナイフなどで身近な材料の加工、中学年は、金槌やのこぎりでの工作、彫刻刀による木版画、高学年は電動糸のこの使用や既習学習から道具を選択する、といったように、イメージに合わせて技能を発揮する姿が見られる。 **〇思考力・判断力・表現力** 思いついたことを試したり、活動の中で感じたことでさらにイメージをふくらませたりして、作ろうとしている。より具体的に構想するために、これまでの経験を生かしたり、友達の作品を見たりして、自ら主体的に考える姿も見られる。また、授業の中で友達の作品を見て、よさや美しさを認め、そこから感じたことを言葉にしたり、作品づくりに取り入れたりしている。美術作品に触れる機会や生活の中の造形に目を向ける機会を表現と関連させて取り入れているが、造形に対する多様な視点や、言葉の不足を感じる場面がある。 **〇主体的に学習に取り組む態度** 自分の思いを表すことが楽しいと思える児童が多い。新しい材料や用具について知りたい試してみたいという思いを強く感じる。最後まで作り上げたいという気持ちもある。 めあてを通して自分の表現をじっくりと深めることが苦手な児童もいるので、手立てが必要。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

①主体的に材料にかかわり、発想や構想を深める手だての充実
　表現する意欲があり、造形に対する興味をもっている児童が多いので、引き続き一人一人の思いを尊重する言葉がけを行う。そのうえで、造形あそびの時間を充実させて、手や体全体を使うことや、友達の表現を知る活動を増やし、やりたいことを自ら見つけられる力を育む。

②鑑賞の環境づくりの充実
　校内展示の計画の実行やICT機器の利用により、題材の周知と作品のよさを相互に認める機会を増やしたり、視聴覚資料を使った対話型鑑賞を取り入れたりする。資料や生活の中の造形を題材に取り入れ、作家や作品について知る機会をもつ。

図工科の授業改善策

①主体的に材料にかかわり、発想や構想を深める手だての充実のために
　低学年　手や体全体の感覚などを働かせ、身近な素材を使った表現方法により多く触れる。
　中学年　手や体全体を十分に働かせて自分のイメージに合わせて材料を選ぶ経験を増やし、活動の幅を広げる。
　高学年　表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、これまでの経験や技能を総合的に生かして、表し方も自分で決定できる題材を設定する。
　〈共通〉　造形素材の収集や図工室の整備により、日常的に造形あそびに取り組める環境をつくり、子供自ら材料に近づいていく経験を増やす。多様な材料を体験するため、版に表す経験や土を焼成して表す経験を取り入れる。
②鑑賞の環境づくりのために
　低学年　学年フロアや教室での作品展示でよさを認めあう。作品紹介タイムや鑑賞カードを使って、見たり振り返ったりする時間をもつ。
　中学年・高学年
　校長室前での作品展示や、ICT機器を使った鑑賞会を行うことで、よさや美しさを、認めあい言葉で伝えあう機会を増やす。日本や世界の作家や作品について表現と関連させながら鑑賞する機会をもち、日本や世界の文化（美術）にふれる。

家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

○体験を通して感じたことや気づいたこと、よりよくしたいことを班や学級で共有したことで、実感を伴った理解ができる児童が増えている。また、家庭実践を取り入れたことで、家庭での仕方を知り、自ら行う子が増え、さらに知識・技能の深まりが見られる。 ○学校で身に付けたことや友達との交流で得た知識を活用して、家庭実践にて自分なりに工夫して自分の生活をよりよくしようとする態度が見られる。 ○調理や裁縫などの技能の習得については個人差が見られるが、意欲的に身に着けようとする姿勢があり、家庭での実践を通して習得の深まりが見られる。

家庭科における調査結果の分析

内容別結果の分析	A　家庭生活・家族 　家庭生活への関心があり、自分の家庭について考えることができる。自分の生活時間を振り返ることで改善点は見つけることができるが、家族と自分をつなげ、家族の生活時間を考慮し、感謝の気持ちを伝えたいということに繋げられる児童は上学年になればなるほど少ない。 B　衣食住の生活 　調理実習には意欲的に取り組み、技能や知識を習得しているが、特に細かい作業が必要な裁縫実習などは家庭での生活経験が少ないため個人差が見られる。普段の生活で行う掃除や家庭で手伝ったことのある洗濯の学習での取り組みでは、経験があるため主体的に学ぶ児童が多くない。 C　消費生活・環境 　家庭での工夫を調べたり、発表したりすることで実際の自分の生活に関連付けて学ぶことで意欲が高まってきている。ものや金銭、計画的に買い物をすることの大切さを学んできたが、物の無駄のない使い方や環境の問題と関連付けて考える力や実生活に生かしたいという意欲が薄い。消費者としての買物の仕方の意識は変化している。
観点別結果の分析	○知識・技能 　家庭生活に関心をもち、調理実習や裁縫、洗濯、掃除などの体験的な学習に意欲をもって取り組む姿が見られた。学校で学習したことを生かして家庭で実践することで、新しい手順や方法・こつを学ぶ姿が見られたが、家庭で実践しようとする意識がない児童が前年度より多い。授業だけでは技能を高めるには限界があるが、裁縫などでは休み時間などの自分の時間を使って技能を高め、基礎・基本は身についてきている。しかし個人差が見られるため、それぞれの家庭生活でも、経験する機会をなるべく多く設ける必要がある。 ○思考力・判断力・表現力等 自分の身近な家庭生活を振り返り、生活を豊かによりよくしようとする気持ちは見られるが、主体的にそれらを学校や家庭でよりよくしようとする児童が少ない。また、既習知識を活用して自分なりの工夫を入れて物事を考えられる児童が少ない。 ○主体的に学習に取り組む態度 実践的・体験的な活動から得られた知識は身についている。栄養素の定着を図るために行った毎回のテストでは多くの児童が知識として身に付き、それをもとに献立を考えることができた。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1　実践的・体験的な活動を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を伸ばす。 2　家族との関わり合いや家庭の中での自分の仕事などを学習し、その学んだことを自分自身の生活に継続して生かそうとする意欲を伸ばす。 3　問題解決的な学習を取り入れ、一人一人が生活の中から課題を見つけ解決していくような学習を計画し、よりよい生活をしようとする意欲や能力を伸ばす。

家庭科の授業改善策

○実践的・体験的な活動を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を伸ばすために 　様々な知識や技能を実際に製作したり模擬体験をしたりして身に付けていき、児童同士で経験をもとに話し合う授業を計画する。学校で身に付けたことを家庭で実践できるよう家庭にもお願いをし、知識・技能の定着を図る。また、ミシン等の実技学習の際は保護者ボランティアを募り、技能の向上を図る。 ○家族との関わり合いや家庭の中での自分の仕事などを学習し、その学んだことを自分自身の生活に生かそうとする意欲を伸ばすために 　普段の授業の中でのフィードバックを増やす。家庭で実践したことを報告する機会や場面を設けて、家族や周囲の人に褒められる経験を多くとれるようにする。 ○一人一人が生活の中から課題を見つけ解決できる学習をし、よりよい生活をしようとする意欲や能力を伸ばすために 　一単元の中で振り返りの学習から次時への実践の方法を考えさせたり、方法や手順を見直したりするPDCAサイクルを意識した生活の改善が有効であることを児童に実感させる。自分なりの工夫を取り入れて解決できるようなワークシートを作ったり、他者の方法を見つめる活動をしたりして生活をよりよくしようとする態度を育てる。

体育科における昨年度の授業改善推進プランの検証

〇一校一取組として、中休みに持久走タイムや短縄、長縄に積極的に取り組んだ。24年度より取り組んでいる、持久走月間、短縄月間、長縄月間の活動を継続したことで、体力テストにおける持久走の記録維持・向上に役立っていると考えられる。
〇今までは、どの学年の男女も区の平均を下回っていた投力が、中休みに投げっ子タイムを実施したことにより、ソフトボール投げの結果で全学年、区の平均を上回っている。
〇「運動を好き」と答えている児童の平均が全校の9割を超えていて、すべての学年で8割を上回っている。さまざまな運動に意欲的に取り組んでいる児童が多いことがわかる。しかし、技能の個人差や経験の有無の差が大きい。
〇体力テストの結果から、引き続き持久力、握力、投力の向上を目指した継続的な取り組みをさらに充実させる必要がある。
〇学習カードを活用して、技のポイントの具体例を示すことで、児童一人ひとりのめあてが明確化された。このことから、児童の体育の授業に対する意欲が高まったと考えられる。

体育科における調査結果の分析

内容別結果の分析	平成31年度東京都統一体力テストの結果より 〇持久力（シャトルラン）…1、3、6年生は、大田区の平均を上回っている。 〇50m走…ほぼすべての学年が大田区の平均を下回っている。 〇立ち幅跳び・・・ほぼすべての学年が大田区の平均を上回っている。 〇投力（ソフトボール投げ）…ほぼすべての学年が大田区の平均を上回っている。 〇握力…ほぼすべての全学年が、大田区の平均を下回っている。 〇「運動が好き、やや好き」…9割の児童が「好き、やや好き」と回答している。 〇「運動が得意、やや得意と感じている」…8割の児童が「得意、やや得意」と回答している。
観点別結果の分析	〇知識・技能 習い事で運動をしていたり、休み時間に校庭で鬼ごっこやボール投げ、固定遊具遊びをしたりしながら日常的に運動をしている児童と、そうでない児童とに二極化する傾向がみられる。体育・健康に関しての知識を知っているだけではなく、実生活で生かしていけるようにしていく。 〇思考・判断・表現力 運動の仕方を工夫し、技や動きをよりよくしようと活動することができなかったり、自分の力を把握して、適切にめあてを設定することができなかったりする児童が見られる。 〇主体的に取り組む態度 多くの児童が運動が楽しい、好きと感じているとともに、運動が得意であると感じている。しかし、高学年になると4人に1人が運動が不得意である、やや不得意であると回答しており、技能面で児童に自信をつけられるようにしていく必要がある。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1　児童の基礎体力の向上させる。
〇校内で体力向上のための取り組み（チャレンジタイム）を行い、運動の楽しさを味わせる。日頃から運動に親しめるきっかけづくりを行う。
2　技能や基本的な運動能力が身に付いている児童が少ない。
〇デジタル教材や学習カードなど、教材、教具の工夫して技や動きのポイントを理解できるようにする。
3　自分の力を把握して、適切にめあてを設定することができない。
〇毎時間めあての確認をしたり、学習カードを活用して振り返りをしたりして、自己の力を把握する。
4　技能に個人差がある。
〇スモールステップで取り組ませ、運動が楽しいと思えるような達成感を味わわせる。

体育科の授業改善策

〇児童の体力を向上させるために
体力向上のための取り組み（持久走月間、投げっこタイム、短縄月間、長縄月間）を、年間を通して継続させて取り組む。教員が体育の授業を改善して1時間あたりの運動時間をしっかりと確保する。

〇教材、教具の工夫を通して技や動きのポイントを理解できるようにするために
技や動きのポイントを学習カードに分かりやすく提示し、それを拡大したものなどを掲示したり例示しながら説明したりすることで、動きや技のポイントを身に付けられるようにする。

〇自己の力を把握し適切なめあての設定をするために
学習カードを活用し、明確なめあてを一人一人にもたせる。授業の中でめあてを友達に伝え合う時間を設ける。

〇児童の意欲を高めさせ、達成感を感じさせるために
教員が技能分析をして児童の実態に合った段階的な学習を行っていく。また、学習カードや場の工夫や、友達同士のアドバイスの時間を設ける。ペアやトリオといったグループを活用し、見合い、教え合いの活動を取り入れていく。

〇握力や投力をつけるために
毎時間、主運動につながる感覚づくりを行い、基本的な運動能力を身に付けられる準備運動の工夫をしていく。器械運動の鉄棒や体つくり運動で固定遊具を使ったりする中で、握力を高めることができるようにする。年2回、投げっこタイムを行い、ゲーム感覚でボールを遠くまで投げるポイントを身につけられるようにする。

（様式）

小中一貫授業改善プラン　重点観点及び重点指導事項一覧（大森第十中学校区）

令和二年度

国語科

	観点別				
小中共通	国語への関心・意欲・態度	話す･聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解･技能
重点観点		◎	◎	◎	
重点指導事項	・相手に分かりやすく伝えることができるための指導の工夫				

社会科

	観点別			
小学校	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察･資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
中学校	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
重点観点	◎			
重点指導事項	・興味、関心を高める教材の工夫			

算数･数学科

	観点別			
小学校	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
中学校	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
重点観点	◎		◎	
重点指導事項	・つまづきのある児童生徒に対する個をに応じた指導の工夫			

理科

	観点別			
小中共通	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考･表現	観察･実験の技能	自然事象についての知識・理解
重点観点				◎
重点指導事項	・生活とのつながりを大切にした教材開発 ・児童生徒の理解を深める指導法の工夫			

音楽科

	観点別			
小中共通	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
重点観点		◎	◎	
重点指導事項	・合唱などにおけるできるという達成感をもたせる表現活動の充実 ・児童生徒が思いや意図を伝え合い、表現活動を深められる指導の工夫			

図画工作･美術科

	観点別			
小中共通	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
重点観点	◎		◎	
重点指導事項	・小中での技能の系統を意識した、材料用具の指導法の工夫 ・できるという達成感をもたせる表現活動の充実			

保健体育科

	観点別			
小中共通	運動や健康･安全への関心・意欲・態度	運動や健康･安全についての思考・判断	運動の技能	健康･安全についての知識・理解
重点観点	◎		◎	
重点指導事項	・苦手意識のある子への指導の工夫 ・基本的な運動動作の獲得			

技術･家庭科

	観点別			
小学校	家庭生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	家庭生活についての知識･理解
中学校	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識･理解
重点観点	◎			
重点指導事項	・小中の技能の系統を意識し、安全面への注意とICTを活用した到達目標が分かる指導の工夫			

外国語科（英語）

	観点別　（指導要録に記載されているもの）			
小学校	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	（空欄）	言語や文化についての気づき
中学校	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
重点観点	◎			
重点指導事項	・小学校から中１へスムーズに移行するための教材や指導法の共有 ・指導要領改訂にともなう情報の共有			